

デング①

高熱、ひとつ間違えば…

体が燃えるように熱くけだる。私は後部座席でベアトリーチエのひざの上にくすぐまっていた。運転手のカンディドと助手席のハシントが心配して声をかけてくる。ドミニカ共和国の首都サント・ドミンゴへ向かう海岸沿いの道はカリビアンブルーの海の光が照り返していた。

何カ月もかかって探していた資料が見つかったのだ。資料を抱えて待っていてくれる。風邪くらいで予定を変更するわけにはいかなかった。

資料を手に入れ、ラ・ロマーナに帰る車の中で高熱でぐったりした私に、ハシントが「デング（デング熱）かもしれない」と言った。「メキシコやグアテマラの旅行から帰った直後で、体が疲れていて風邪をひいたのだろう」と答

えたが、風邪ではないと内心は感じていた。以前にインドで、泳いだあと高熱が出て、1週間以上安宿のベッドの上で悶死するかもしれない状態だったことがある。

帰り着いたベッドの上で、もうろうとした一夜を過ごした後、首都にある国際協力機構（JICA）の事務所に電話を入れた。迎える車が来て、数時間後には病院で点滴を受けていた。デングだった。一年中30度もあるような暑い国で、毎年沢山の人がデングで死ぬ。ニュースにもならない。

ベッドの傍らでベアトリーチエが「1泊5万円のホテルのような豪華な病室で、点滴につながれてトイレ通いなんて、喜劇みたい」と笑っている。冗談ではない。ひとつ間違えば今頃死んでいたかもしれないのだ。（つづく）



デング対策の消毒はキューバでも行われていた＝筆者提供